

# 第1日 五十音図と歴史的かなづかい

## 解答

### 《上段》

あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
い	き	し	ち	に	ひ	み	い	り	る
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	う
え	け	せ	て	ね	へ	め	え	れ	ゑ
お	こ	そ	と	の	ほ	も	よ	ろ	を

### 2

- 1 ① ワ  
② イ  
③ ウ  
④ エ  
① オ  
② ユ  
③ ヨ

### 《下段》

- 1 ア行 ② あ い う え お

れた意味のある「歌」なのです。弘法大師が作ったと伝えられてきました。現在では否定されています。

3・4 「現代かなづかい」は、現代の言葉で書いたときの読みです。発音と表記が完全に一致している人がいるかも知れませんが、それは誤解です。

たとえば、助詞の「は」「へ」「を」などは歴史的かなづかいを残しましたから、本冊上段の読み方に従わないと変な日本語になってしまいますね。また、4の①「いふ」の現代かなづかい「いう」も、発音と表記がずれていることに気づいたでしょう。発音どおりに書くなら、みなさんがメールで打っているように「ゆう」となるはずですよ。

「歴史的かなづかい」は、平安時代中期以前の古典に基準をおいたかなづかいですから、だいたいその当時の発音を反映しているわけですが、長年の間に発音の方はしだいに変化しても、表記の方はそのまま固定して残りました。

ですから、千年以上もたった今では、「歴史的かなづかい」で書かれたものをそのままには読めないわけです。

本冊上段2の原則を頭に入れてから、すらすら読めるようになるまで練習しましょう。

## 品詞活用辞典

- 4 (1) 今 名 は 係助 昔 名、竹取の翁 名 と 格助 いふ ハ四・体 者 名 あり ラ変・用 けり ハ四・終。野山 名 に 格助 まじり ラ四・用 て 格助 竹 名 を 格助 取り ラ四・用 つつ ハ四・体、よろづ 名 の 格助 こと 名 に 格助 使ひ ハ四・用 けり ハ四・終。

## 解説

### 《上段》

1 「五十音図」というのは、本来「五十」の「音」の配列を定めたもので、空欄があってはいけません。同じ「かな」だからといって省略してしまうと、動詞の活用などの説明に支障が起きる場合があります。

縦の並びを「行」、横の並びを「段」ということも覚えましょう。

2 歴史的かなづかいの読み方のうち、最初につまずきやすいものを表にしました。1は「ハ行音」をワ行音に読み替える場合、2は「ウ」に続く連母音の場合です。まれに例外もありますが、まず原則を覚えることが大切です。

### 《下段》

1 五十音図のうち、特に混乱しやすい三行です。動詞の活用の種類を決めるときに「行」の決め手になるので、正しく覚えてください。

2 「いろは」というのは、単なる符号ではなくて、平安時代中期に作ら

ヤ行 ② や い ゆ え よ  
ワ行 ② わ ろ う ゑ を

2 いろはにはほへとちりぬるを  
わかよたれそつねならむ  
うゑのおくやまけふこえて  
あさきゆめみしゑひもせす

- 3 (1) アワレ (2) コイシ (3) ユウベ (4) カエス  
(5) ホノオ (6) ヨウヨウ (7) イミジュウ (8) ショウト  
(9) オモウ (10) マイル (11) ユクスエ (12) オカシ  
(13) ユメジ (14) イズレ

- 4 ① イウ ② ヨロズ ③ ツカイ  
④ ウツクシユウ ⑤ イ

今ではもう昔のことであるが、竹取の翁という者が住んでいた。(その竹取の翁は)野や山に分け入っては、竹を取り取りして、いろは道具を作るのに使って(暮らして)いた。

- (2) それ 代 を 格助 見れ マ上・に ば 格助、三寸 名 ばかり ハ四・体 なる ハ四・終 人 名、いと ハ四・終 うつくしう 形シク・用 て 格助 ろ ハ四・終 たり ハ四・終。

それを見ると、三寸ぐらいの人がとてもかわいらしい様子ですわっている。